

時代や社会のニーズに合わせ進化させた 先進性・独自性のある教育プログラム



時代や社会などのニーズに合わせた先進性・独自性のある教育プログラムや教育機器、教材などのソフトウェアの開発を推進しています。そして、普及拡大に努めています。

高齢歩行者の道路横断中事故を防ぐための 新たな教育プログラムを開発

今年開発が完了した高齢歩行者向けの教育プログラム「安全な道路の渡り方について」交通安全教室(P4～5参照)は、道路横断中の事故を防ぐための安全行動を高齢者に理解していただくことを目的としています。横断後半に左側から来るクルマと事故に遭うケースが多いことから、事故にいたる過程を歩行者とドライバー各々の目線で再現した映像を使い、こうした事故の原因を高齢者に考えていただくことで安全行動への理解が深まる内容となっています。また、道路横断シミュレーションの体験を通じて、意識と行動のミスマッチに気づいていただくことができ、指導者が高齢者に事故を未然に防ぐ方法をわかりやすく解説できます。

開発にあたっては、交通指導員の方々からの意見を数多く反映させ、現場で使いやすいものをめざしました。プログラムは「昼間編」「視野編」「夜間編」に分かれていますので、このうちの一部を交通指導員の方々が行ってきた教育手法と組み合わせることも可能です。



歩行者とドライバーそれぞれの目線で事故の過程を再現した映像



道路横断シミュレーションの体験

幼児・児童向けへの 新たなプログラム開発に着手

12歳以下の交通事故負傷者数は減少傾向にありますが、2014年はおよそ3万5000人を数え、依然として大きな課題です。また、昨年開催した「教材研究会」では幼児・児童向けのプログラムとして、参加した交通指導員の方々から、既に活用していただいているHondaの交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」の発展的なものを求める意見が数多く寄せられました。そこでHondaでは、幼児・児童を対象とした新たな教育プログラムの開発に着手しました。楽し

企業・団体の運転者を対象にした 教育プログラムの進化

企業・団体の安全運転教育に対するニーズに対応して、教育効果をさらに高めるため、Hondaの交通教育センター(P27参照)の研修で使用する教育プログラムの拡充を図っています。

インストラクターが企業・団体の運転者の同乗指導の際に、より効果的なアドバイスができるよう「路上運転診断プログラム」を開発しました。ドライバーが路上運転する際の行動特性を同乗するインストラクターがチェックし、結果と改善点を

全国5会場で開催された「交通安全教育プログラム勉強会」で開発の方向性が紹介された幼児・児童向けの新たな教育プログラム



く交通安全を学んでほしいという想いのもと、「あやとりい ひよこ編」で交通ルールを習得した子どもの次のプログラムと位置づけ開発しています。



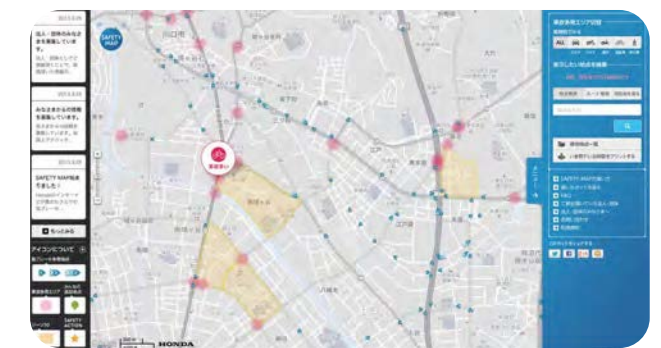
Hondaの交通教育センターでの「路上運転診断プログラム」を使った研修

走行終了後すぐにパソコンの画面を見せてフィードバックできるようにしています。さらに来年の導入をめざして、運転者に自分の感情や心理状態を客観視することを習慣化してもらうことを目的としたプログラムの開発も進めています。

交通事故防止への 「SAFETY MAP」の活用

「SAFETY MAP」は運転者のみならず、歩行者・自転車利用者も含めたすべての交通参加者がパソコンやスマートフォンで自由に活用いただくことを目的に制作しました。個人の利用だけではなく、交通事故防止に活用する企業・団体も増えてきています。Hondaはさらに多くの企業・団体にはたらかせることにより、「SAFETY MAP」を交通事故低減に役立てていただきたいと考えています。例えば、福井県では各市町が「SAFETY MAP」に表示される急ブレーキ多発地点や事故多発地点が通学路や子どもが集まる施設の近辺かどうかを確認し、該当する箇所については現地調査を行うことで、急ブレーキや事故が発生する原因の特定をめざしています。これをもとに県と各市町では今後、道路環境の改良などのハードと、児童の登下校の見守り活動や啓発活動などのソフトの両面での安全対策を実施する予定です。

また、有識者と共同で「SAFETY MAP」に投稿された主観的な危険情報や急ブレーキ多発地点データと事故発生との因果関係を分析するとともに、交通安全の教育現場でどのように役立てることができるかという研究なども行っています。



パソコン用「SAFETY MAP」(イメージ)。以下のホームページでご覧いただけます。<http://safetymap.jp/>



福井県が「SAFETY MAP」を交通事故防止に活用